

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名		公表日			
		年	月	日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	5		国の基準値（1人あたり2.47㎡）以上確保している。 定員10名でも十分活動出来るスペース	
	2	4	1 どちらともいえない	国の定める10名に対し2名職員（有資格者）配置できている。それに加え1名（有資格者5年以上）の経験者を配置しているが必要に応じ（障がい別や児童の状態により配慮し安全性確保）増員するように努めています。	ドライバーは増員予定
	3	5		様々な障がいでも対応できるように運動ルームや勉強ルーム食事等棚などを使い区別している。情報伝達に関しても個々の子どもに応じた工夫を実施している。	
	4	4	1 どちらともいえない	清潔に保てるように日々清掃等実施し意識改革に努めている。 5S活動。室内のレイアウトや壁面など毎月話し合い心配り、心地よく生活できる環境作りを実施。	
	5	5		静養室、相談室を設けている為個別に必要な場合対応できるように別室設置されている。 クールダウンなどにも利用している。	
業務改善	6	5		面談や日頃の情報交換にて支援内容質の向上に向け話し合う機会を設けている。 定期的な会議や研修を行っている。 計画実施後日々の様子今日はどうかかなど共有をこまめに実施したい。	
	7	5		必要時期に応じてアンケート配布、送迎時に現在の支援内容の共有と把握を図り、保護者様と児童が必要としている支援内容が提供できるように取り組んでいます。 評価表によるアンケート調査実施し結果確認後改善と周知に努めます。	
	8	5		毎月研修とは別に定例会を実施し職員の見解や意見を共有できるように努めている。その後反省と改善を共有し次に繋げている。 自治体の勉強会にも参加し自事業だけではなく他事業の意見も把握し自事業の質の向上に努めています。	
	9	4	1	地域で実施されている研修など意見交換できるように参加している。	自己評価を外部に評価してはもらっていない 為今後は他施設等の協力連携し外部評価を導入していきたい。
	10	5		事業所内での研修実施しています。 研修動画サイトを利用し各職員が質の向上が出来るよう環境確保されている。	
適	11	5		ホームページに公開予定（令和7年3月31日）	
	12	5		アセスメント項目や確認内容を共有し実施 定期的なアセスメント項目を検討・内容更新することにより子どもの状態がリアルに分かりやすく把握できる内容を整理することでより良い計画が作成できる。	
	13	5		担当制を導入し支援内容の共有や改善を図るように実施している 共通理解ができればより満足度の高い支援、子どもや保護者様の意見がそのまま計画に反映することにより最善の利益につながる。	
	14	5		モニタリング・担当者会議・作成後職員と共有し計画に沿った支援を周知徹底するように努めています。	
	15	5		定期的に「確認」改善しています フォーマルなアセスメントは定期的に実施している。 インフォーマルなアセスメントも連絡帳やLINEツールの利用で情報収集することができている。	
	16	5		計画書には各項目を具体的に作成し日々の活動記録にも事前に支援内容「ねらい」を反映させ周知できるように工夫している。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		活動計画を作成し全員で立案担当が1日のタイムテーブルを作成 日常生活動作習得や子ども自身が見通しをもって自発的に活動できるように促せるよう実施。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		活動計画を作成し全員で立案担当が1日のタイムテーブルを作成 日常生活動作習得や子ども自身が見通しをもって自発的に活動できるように促せるよう実施。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		対象児の年齢、特性、発達段階、生活状況等に応じた内容を組み立てチームで計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援前は朝礼で打ち合わせを行っている。 「ねらい」役割その日の子どもに応じた対応が出来るよう努める。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1 どちらとも いえない	支援終了後は残務処理中に実施している。 細かい詳細については引き継ぎに記入し朝礼で反省、よかったこと気づいた事を周知徹底している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		個別学習については、個別記録へ記入。 集団活動についてはイベント計画に記録（反省も記入） 平日集団活動は活動記録へ記入している。 その内容を踏まえ定期的にMT実施している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的に面談後モニタリングを実施している。 その後チームで計画の見直しが必要か話し合い適切に対応している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		1. 自立支援と日常生活の充実のための活動 2. 創作活動 3. 地域交流の機会の提供 4. 余暇の提供 を組み合わせたような月間活動の取組を前もって話し合っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		毎月MTにて自己選択できるように年齢、障がい特性などを踏まえた支援内容を作成。 自己決定できる力をつける工夫を実施。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		担当者会議等は子どもの担当者を会議参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて各関係機関との連携を図るが個人情報との兼ね合いで情報提供して頂けない場合がまだまだ多いので今後そのようなことが無いように行政が中心となり見通しの良い連携になることを望んでいます。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校の情報共有も同じですが、個人情報の関係で提示が難しいと言われることが多いです。保護者様から頂くようにお声がけしていますが最近では共働き家庭が増えている為（きょうだいなどで忙しいなど）心苦しい限りです。 日々連携することで改善できるならより一層深くしっかり連携していきたいと考えています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	しっかり対応できるよう体制を整えていきたい。 保護者に承諾して頂いた場合は実施しています。 フェースシートや支援状況シートを使い情報提供し相互理解を努めます。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		現在そのような児童は利用していませんが必要に応じて提供できる体制は整えています。 自分ノートを事業所で作成しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		市で実施している勉強会に参加し児童発達支援センターとの連携ができています。 その勉強会で外部講師を呼んでいただき研修を受けることが出来ている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		地域の子ども会活動に参加している。（適宜） 学校で自治体等運営している行事に毎年参加している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	協議会に対するヒヤリングなどの情報は共有されています。 泉大津市の会議・情報交換ができる場には全員が参加できるように取り組んでいます。（全員ローテーション）	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や連絡帳を通して日頃から状況説明を行い双方が納得のいく支援が出来るように取り組んでいます。 視覚的に情報が入りやすく簡潔に伝えられるよう工夫しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	家族が参加できる研修はまだ未実施の為来年度計画していきたい。 家族に対して支援に関しては面談や計画によりお伝えしています。 今後更なる連携を目標に接遇や対応力を向上を目指す。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明しています。 実費や利用者負担が発生する場合には説明し書面でもわかりやすく工夫しています。 分からない場合は説明できるように職員全員が対応しています。		

保 護 者 へ の 説 明 等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		送迎時や必要時の面談に聞き取りした内容を記録している。 子どもの意見に関しても日々の聞き取りや計画前面談等で意向や利益優先できるように努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		計画後内容説明し同意をしっかりとる時間を作っていただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談や連絡ツールを使い必要に応じてご訪問など色々保護者様にあう方法で対応しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5	令和5年と同じように連続して課題としています。 令和7年度は交流会として実施したいと考えています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情報告が発生した場合しっかりと迅速に対応しています。 問題解決にむけ改善し保護者様子どもへ説明させて頂いています。話し合いにて対応しています。記録も残しています。 速やかに報告し電話対応、直接お伺いし	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月のお便り、えんふोटによる写真配信を行い日常を知って頂けるよう工夫しています。 イベントカレンダーを用いてその日の活動を把握して頂き必要に応じてしおり配布し1日タイムスケジュールが保護者様もわかるように努めています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報持ち出されないように鍵付き書庫にて保管 防犯カメラの設置 紛失リスクを回避する為出来る限りデジタル化し不要な書類はシュレッダーにて廃棄。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		必要に応じて視覚的支援やマカトンなどを用いて意思表示できるように取り組んでいます。 コミュニケーションカード等を使い意思疎通を図っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	イベントには招待が出来ていない現状ですが今後そのような機会を増やしていきたいと思っています。 スペースなども考え夏祭りやハロウィン、クリスマス会餅つきなど今後招待できるように取り組んでいます。	
	非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		研修に取り入れれたりグループ活動に取り入れることで保護者様に周知実践を実施しています。 ホームページでも分かりやすく配信しています。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		各項目ごとにBCPを作成し準備・実施前MTにて具体的な避難訓練を行っています。 各項目ごとに年に2回以上実施しています。	
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		薬情を提供して頂き全員に周知徹底しています。	
49		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		契約時に確認し必要に応じて医師の指示書に基づく対応を実施 定期的にアセスメントシート作成し確認しています。	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画・安全管理に関しては年に数回実施しています。	
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全確保に関してどの場面でも取り組めるように毎月計画に記載しています。ホームページにて発信しています。	
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットを作成し年に数回振り返り再発防止の会議を実施しています。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		個人で学ぶ機会を取り入れたり研修を行い気づきや最悪の事態を防げるよう日頃から意識しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		現在そのような児童は利用していませんが身体拘束の研修時どのように支援していくかの研修を実施しています。		